

Rider's Salon

気になるグッズ  
使ってみました

# 鉄馬倶楽部 鉄馬ガード

アール・セキュリティーフィルム ☎0299-83-7800

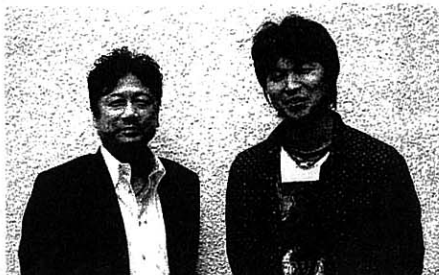
過去にも再三お伝えしてきたはずだが、ここに今一度声高らかに宣言する。

「私は洗車が苦手だ」と。

これまで、数台あるどの愛車についても時々サッサッとホコリをはらい、さらに極めてまれな機会に、市販ワックスを気まぐれに試す程度の手入れしかしていなかった。あまり水をかけて錆びさせたくないという～と言いつつ、走れば汚れるという自然の摂理から目を背けていたにすぎない。ああ、もし私と愛車が逆の立場だったら、「オレはオマエの愛車じゃない、「哀車」だ。もうこれっきりにしよう」と三くだり半を突きつけるに違いない。

さて。そんな折、以前より度々お世話になっているアール・セキュリティーフィルムの岡田昌信さんから電話が入り、「いいものが出来たんです！」とのこと。何がじゃい！と私にツッコむヒマも与えず、いわく「僕が造りたかったコーティング剤です。何年もかかってようやく出来ました」ですと。

ビクリと私の耳が動く。ほうほう、塗装面などに使うアレね。して、それは岡田さんをご自宅で造ったのかな？ と失礼にも、エプロンを着けて台所に立ち、鼻歌交じりに薬品を混ぜる岡田さんの姿を想像してしまったのだが、実際は某化学メーカーに協力を仰ぎ、彼の言葉どおり数年の歳月をかけて本格的に



▲この製品はコーティングのプロの目にも留まり、4輪の世界でも使われていくことになった。アピールのためわざわざ福島から来てくれたのは、「車のみがき屋コーポレーション」の代表・花見和哉さん（左）とスタッフの高崎康弘さん。鉄馬ガードは同店（喜多方市押切南2-75 ☎0241-22-1295）でも購入可。



◀鉄馬ガードを開発した岡田昌信さん。本誌'07年12月号の「ガレージ探訪」や'08年3月号の「追跡シリーズ」にも登場した大CB750Four好き。なお、問い合わせは携帯電話（090-1434-5980）でもOK。

性能を追求していったものだという。

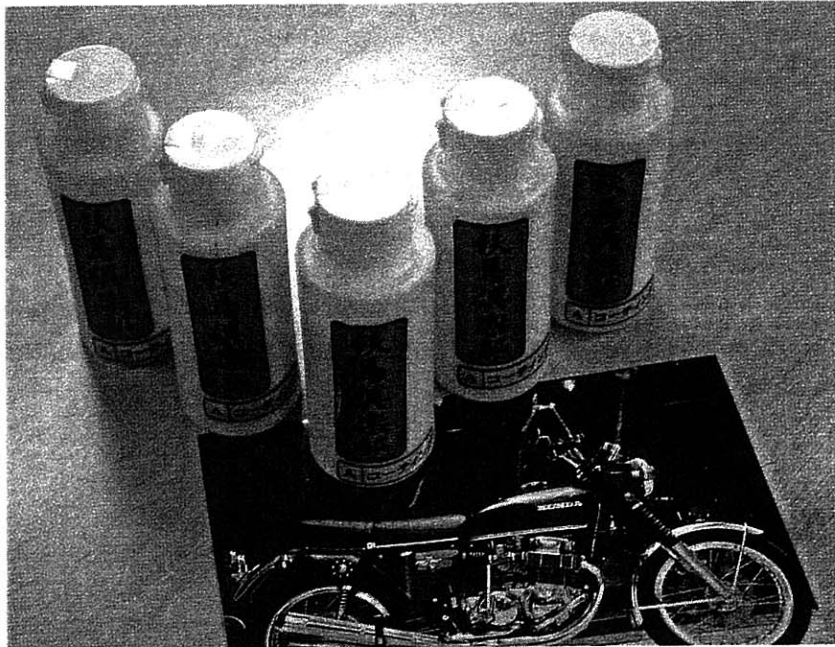
ならば、ならば使ってみましょう。果たしてモノグサな私にも使いこなすことができるのか、早速我がポンコツ実用車のBMW R100Sに使ってみたワケである。

現物は高さ118mm程度の容器に入った、コーヒークリームと間違えそうなトロリとした白い液体。容量はさほどないものの、いわゆる濃縮タイプで伸びがいいので、これ1本で4輪ワゴン車1台くらい施工できるようだ。

使い方は「塗ってふき上げる」だけ。簡単である。それで、無駄にキラつかないしとりとしたツヤが得られる。コツは、硬めで小さいスポンジで塗り付けることと、ふき上げには綺麗な布を使うこと（ワックス用のキメ細やかなクロスだとなおいい）。

そして何回でも上塗り施工ができるのも美点。これは従来品と異なり溶剤が一切入っていないため、定着した皮膜が重ね塗りにより侵されることがないからなんだそうな（旧車の劣化した塗膜にとっても優しいはずだ）。だから重ねるごとにツヤは増し、施工モデルの岡田さんの愛車・CB750Fourに至っては異常なまでにピカピカなのである。ほかにも、私としてはカウルスクリーンやヘルメットのシールドなど、透明樹脂部分での効果が気に入った。ムラにもならず、明らかに透明感がアップするのだ。いいじゃないの。すでにリピーター続出という事実もうなづける。

なお、成分は完全企業秘密。「ソレ、どこで造ってるん？」といった類の質問には一切お答えできない。悪しからず。（神山雅道）



◀かなりの期間、ホコリをはらうくらいのメンテ（と言っていいかわからないが）しかしていなかった、愛車BMW R100Sのタンク。何となく薄汚れて、ツヤも足りないような気がする。それでも、見慣れてしまえば「こんなモンか」となってしまふ私。カエル君は不満顔。



▶使い方は簡単。まず下地を整えた塗装面などにスポンジを利用して薄く塗り付ける。相当地に伸びがいいので、写真くらい出せばタンク1個程度は余裕でイケる。その後ある程度時間を置くと乾くので、綺麗な布でふき上げればいいだけ。



◀「どうです？」と言っても白黒写真では分からない…かな？ だがしかし、ツルツル感は施工前とは明らかに違い、それは走行中にタンクに触れるヒザの感触でもハッキリ分かる。何より扱いが簡単な方がいい。お陰でカエル君も大いに喜んでます。



◀こうすれば分かりやすいか。私のチャームポイントである魚肉ソーセージみたいな五指も奇麗に映り込んでいます。使用時の注意点は古いワックスなどが残っているとスジっぽくなること、なし地部分に使うと白く残ってしまうことくらい。



◀さらなる特徴は、高温に非常に強いこと。これは従来のコーティング剤になかった利点である。ふき取ることのできる場所なら、エンジンやエキパイにも使用可とのこと。ただ、施工後1発目の始動時には少々におう。そのほか、カウルなどのプラスチックにも最適。